

ルーヴル美術館の歴史 1	7
作品 ① 《チェルヴェテリの夫妻の棺》	13
作品 ② 《サモトラケのニケ》	21
作品 ③ 《ミロのヴィーナス》	29
作品 ④ カルトン(?)《アヴィニヨンのピエタ》	37
作品 ⑤ ダ・ヴィンチ《ラ・ジョコンダ(モナ・リザ)》	45
作品 ⑥ ラファエッロ《美しき女庭師》	53
作品 ⑦ ヴェロネーゼ《カナの婚礼》	61

ルーヴル美術館の歴史 2	71
作品 ⑧ フォンテーヌブロー派《ガブリエル・DESTREとその妹》	77
作品 ⑨ ルーベンス《マリー・ド・メディシスのマルセイユ上陸》	85
作品 ⑩ ラ・トゥール《いかさま師》	93
作品 ⑪ ヴァトー《シテール島の巡礼》	101
作品 ⑫ ダヴィッド 《皇帝ナポレオン1世と皇妃ジョゼフィーヌの戴冠式》	109
作品 ⑬ アンゲル《グラント・オダリスク》	117
作品 ⑭ ジェリコー《メデューズ号の筏》	125
作品 ⑮ ドラクロワ《民衆を導く自由の女神》	133

——	絵画の技法が変遷した理由とは？……………	69
コラム		
——	絵画鑑賞をより楽しむための約束事……………	70
ルーヴル美術館フロアマップ 1階……………		11
ルーヴル美術館フロアマップ 2階……………		12
ルーヴル美術館フロアマップ 3階……………		76
美術史年表……………		142

英語翻訳: Wayne P. Lammers

編集協力: 足立恵子

カバーデザイン、本文レイアウト: 大森裕二

DTP組版: 朝日メディアインターナショナル株式会社

CD収録時間: 約74分

CDナレーション: Carolyn Miller

録音・編集: ELEC録音スタジオ

本書は日本語で書き下ろしたテキストを英訳したものです。
逐語訳ではありませんので、それぞれの言語での表現の違い
もお楽しみください。

本書では英訳・ナレーションともアメリカ英語を使用していま
す。CDにはトラック番号の付いた英文が収録されています。

The History of the Louvre Museum

Part 1

ルーヴル美術館の歴史 1

CD

01

No tourist would travel to Egypt and go home without seeing the pyramids, and in the same way, no one would end a visit to Paris without stopping at the Louvre. That is how central the Louvre is to the city, or to put it another way, the Louvre is what gives Paris the nickname, “City of Art.”

Looking at a map of the city shows us the same thing. A straight line runs from the Louvre through Concorde Square to the Arc de Triomphe (Arch of Triumph) across the center of the city. This line then continues through Paris to La Grande Arche (The Grand Arch) in the west, making the Louvre quite literally part of the backbone of the city.

◎without ~ing : ~しないで ◎pyramid : ピラミッド ◎in the same way : 同じように
◎That is how central the Louvre is to the city : 街(パリ)にとってそれだけルーヴルは中心である ◎to put it another way : 別の言い方をすると ◎straight line : 直線 ◎run from ... through ~to ... : ...から~を通過して...まで走る、貫く ◎Concorde Square : コンコルド広場 ◎Arc de Triomphe (Arch of Triumph) : 凱旋門 [arch は「(建築の)アーチ」、triumph は「勝利、凱旋」] ◎across : ~を横断して ◎La Grande Arche (The Grand Arch) : 新凱旋門 ◎making the Louvre quite literally part of the backbone of the city : ルーヴルを街の背骨の一部にしている→ルーヴルが背骨になっている [make A B で「A を B にする」]
◎quite : まさに、まったく ◎literally : 文字通りに ◎backbone : 背骨

ルーヴル美術館の歴史 1

CD 01

エジプトまで観光に行ってもピラミッドを見ずに帰る人などいないように、ルーヴル美術館をのぞくことなしにパリ訪問を終える人もいないでしょう。それほどに、ルーヴルはパリの中心であり、言い換えればパリを「花の都」たらしめている存在こそがルーヴルだといえるでしょう。

このことはパリの地図からもわかります。パリの真ん中を、ルーヴル美術館からコンコルド広場を通過して凱旋門まで、真っ直ぐな線が貫いています。この直線はさらにその先の凱旋門まで続いており、ルーヴルがまさにパリの背骨を形成していることがわかります。

CD 02

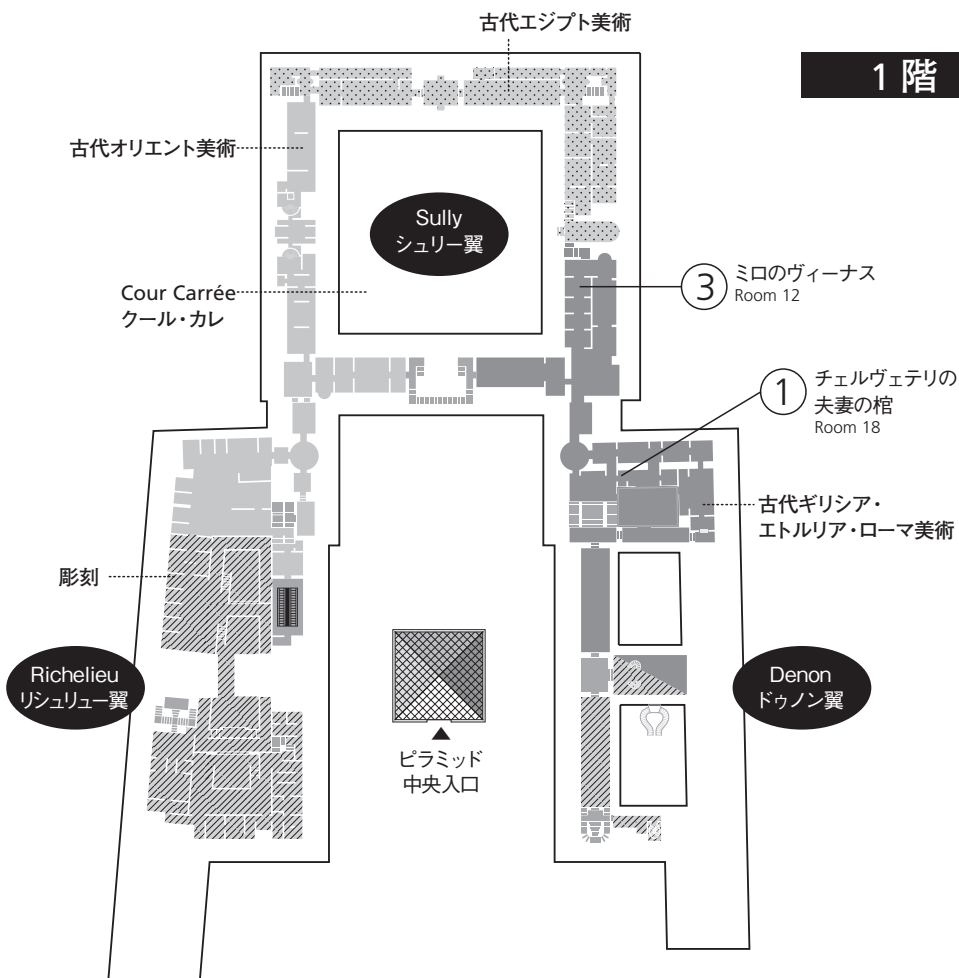
しかし、「美術館」という言葉を聞いて、世界中の人々がまずルーヴル美術館を頭に思い浮かべるようになったのは、それだけの理由ではもちろんありません。重要なのは、現在美術館となっているルーヴル宮殿そのものが、1190年にフィリップ2世が建てさせた要塞時代から続く豊かな歴史を誇る建物であること、そして宮殿自体が、ピエール・レスコやルイ・ヴォーラ多くの建築家や彫刻家、壁画家が何世紀にもわたってたずさわった荘厳な芸術作品である点です。最初に建てられた要塞は、丸い塔を囲む正方形の城砦で、現在のクール・カレの一角にありました。今では地下にその遺構を見ることができます。

CD 03

そして、16世紀末のアンリ4世の時代から、優れた王室コレクションが集められ、1793年には一般公開が始まりました。これは1471年に部分公開、1734年に一般公開されたローマのカピトリニ美術館に次いで、美術館の歴史の最初を飾っています。

こうして質量ともに「美術館の王」となったルーヴル美術館の名品のいくつかを、これから一緒に観てみましょう。(池上)

1階



※作品の展示位置は2009年12月現在のものです。
作品は貸し出しや修復などのために展示されなかつたり、場所が変わることがあります。訪れる際には公式サイトなどで最新情報を確認してください。

※ルーヴル美術館には半地下の展示室もありますが、本書では解説で取り上げた作品の展示場所のみ紹介しました。半地下では、10の категорияに大別されるルーヴルのコレクションのうち、イスラム美術や中世のルーヴルの姿などを見ることができます。

アフリカ・アジア・
オセアニア・
アメリカ美術

2階

古代エジプト美術

Sully
シュリー翼

古代ギリシア・
エトルリア・ローマ美術

② サモトラケのニケ

⑫

皇帝ナポレオン1世と
皇妃ジョゼフィーヌの
戴冠式
Room 75

⑬

グラント・オダリスク
Room 75

⑭

メデュース号の筏
Room 77

⑮

民衆を導く自由の女神
Room 77

⑥ 美しき女庭師
Room 5

⑤ ラ・ジョコンダ
(モナ・リザ)
Room 6

⑦ カナの婚礼
Room 6

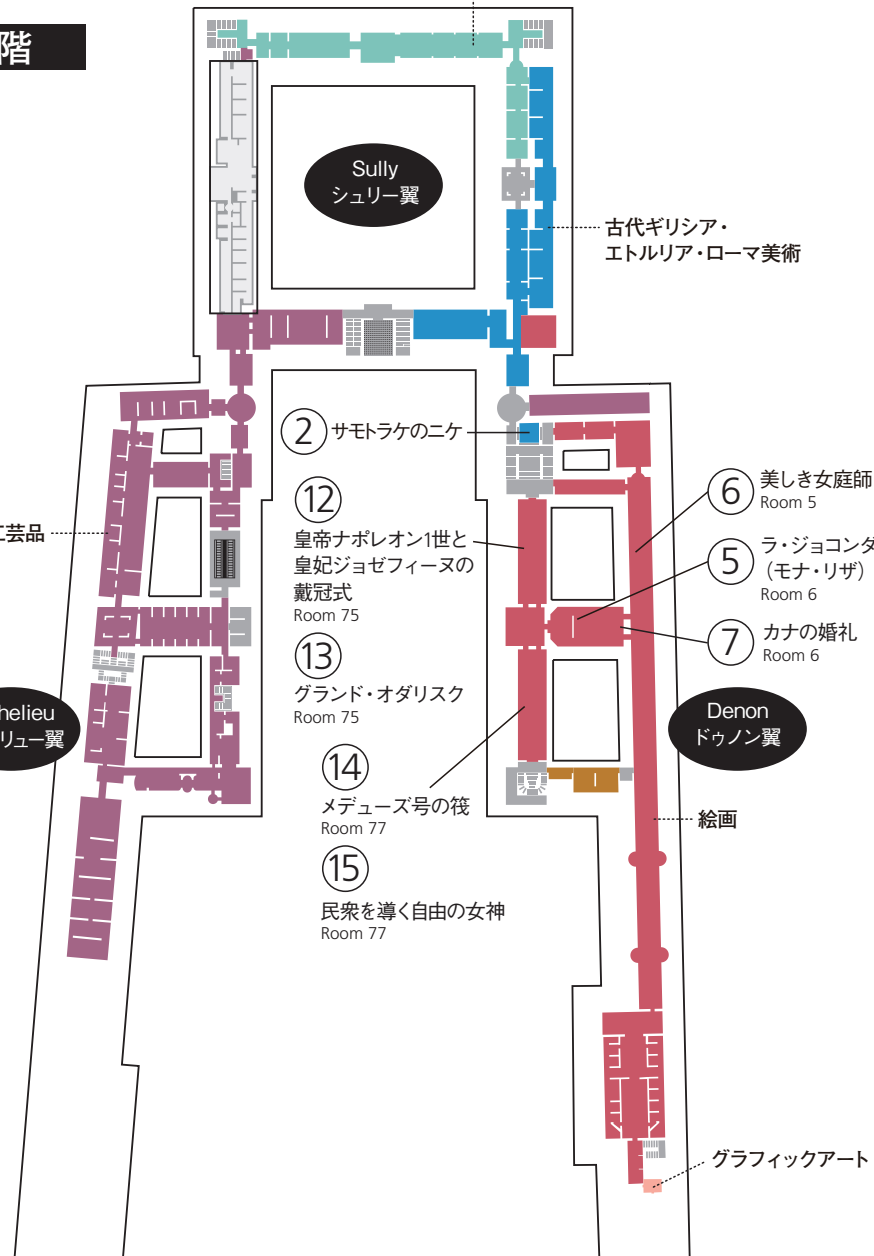
Denon
ダウン翼

絵画

グラフィックアート

工芸品

Richelieu
リシュリュー翼



Few people would disagree that this painting, *La Gioconda* (*Mona Lisa*), is the most famous painting in the world. Because it draws the largest crowds of any work in the Louvre, it is exhibited in an especially large gallery. When the work was brought to Japan in 1974, more than 2 million people thronged to see it. It created a world record for the number of visitors attending a limited-run special exhibit — a record that still stands.

Why does this painting fascinate us so? It is not a work of immense size, nor is the subject a woman of peerless beauty or of great fame in history. But perhaps it is precisely because we do not really know who she is that we are drawn to her enigmatic smile.

● few people ... : …はほとんどいない ● disagree : 反対する、異議を唱える ● draw : 引く、引き寄せる／描く、描写する ● crowd : 観客、観衆 ● be exhibited in ... : …に展示される ● especially : 特別に ● gallery : 展示室、ギャラリー ● more than : ～以上の
 ● million : 100万 ● throng : 群がる、殺到する ● world record : 世界記録 ● limited-run : 期間限定の ● exhibit : 展覧(会)、展示(会) ● still stand : いまだに(記録が)破られていない ● fascinate : 魅了する、うっとりさせる ● not ... nor ~ : …ではなく～でもない
 ● immense : 巨大な ● subject : 被写体、モデル、題材 ● peerless : 匹敵するものがない、無類の ● fame : 名声 [a woman of ... で「…という特徴を持った女性」の意] ● precisely : まさに ● be drawn to ... : …に引きつけられる ● enigmatic : 謎めいた、不思議な

CD

24

世界で最も有名な絵画が、この《ラ・ジョコンダ(モナ・リザ)》であることに異論はないでしょう。ルーヴル美術館の中でも最も多くの観客が集まるので、ひととき大きな特別室で展示されています。1974年に日本で展示されたときには200万以上の人々が殺到し、今に至るまで、一定期間のみ公開される企画展入場者数の世界記録となっています。

なぜこの作品は、これほど人々を魅了するのでしょうか。巨大な作品でもなければ、描かれている女性もとびきりの美人というわけでもありませんし、歴史上有名な人というわけでもありません。しかしむしろ、それが誰だかわからないからこそ、その謎めいた微笑に惹きこまれるのかもしれない。

CD

25

実際、この作品は謎に包まれています。モデルは誰か、いつ、何のために描かれたのか。何世紀にもわたって多くの研究者たちがこの謎に挑戦してきましたが、誰もが納得するような説明は、いまだになされていません。さまざまな資料から判断すると、この作品が描き始められたのは、1503年から1506年頃にかけてのことのようです。その頃、レオナルドが裕福なフィレンツェ商人の妻リザ・ゲラルディーニの肖像画を描いていたことも確かなので、この絵のモデルもリザだろうと考えられてきました。そのためこの作品は、彼女の夫の姓であるジョコンドを女性化した「ラ・ジョコンダ」、あるいはリザ夫人を意味する「モナ・リザ」の名で呼ばれたのです。

CD

26

しかし、それならジョコンド家がこの作品を購入しているはずですが。ところがレオナルドはこの作品を手元に置いて生涯離さず、死の直前まで時々手を入れていました。なんらかの原因で注文が破棄されれば、作品の制作自体やめてしまうのが普通なのに。ほかにもいろいろと妙な点があります。ひとつ考えられるのは、最初のモデルはやはりリザ夫人で、